



## ホンモノ体験で子供の成長を ～シブヤ未来科、学芸会～

副校長 田中 亮太

ぐっと気温が低い日が訪れ、木々の紅葉が進んでいます。西原小では、4月と比べ、たくましくなった子供たちが、様々な活動に主体的に取り組んでいます。プログラミングや探究的な学びの支援プログラム「Kids VALLEY（学年ごとに実施）」、薬剤師さんの「薬物乱用防止教室（5・6年生）」、西原図書館や郵便局、代々木上原駅を訪れた生活科見学（2年生）、車いすラグビーの大会を生観戦した「車いすラグビー観戦（4年生）」。シブヤ未来科として、地域や企業の方々のお話を伺ったり、実際に見聞きたりして多くの刺激を受けました。やはり「ホンモノ」との体験は子供たちの目を大きく開かせるようです。



そんな子供たちは今、12月の学芸会に向けて、学年ごとに練習や準備に励んでいます。登場人物のキャラクターになり切ろうとセリフの言い方を考えたり、声色を変えたりする姿。同じ役同士で立ち位置や体の向きを相談する姿。高学年では、役割分担をしながら衣装や小道具を自分たちで作る姿や、練習を見て自分たちで振り返る様子もあり、西原小全体で盛り上がりつつあります。学芸会もまた、互いの生の演技・表現に触れることのできる「ホンモノ」の体験です。

この「学芸会」は、小学校学習指導要領では文化的行事の一つとして、以下のように位置付けられています。

——児童が学校生活を楽しく豊かなものにするため、互いに努力を認めながら協力して、美しいもの、よりよいものをつくり出し、互いに発表し合うことにより、自他のよさを見付け合う喜びを感得するとともに、自己の成長を振り返り、自己のよさを伸ばそうとする意欲をもつことができるようにする。また、多様な文化や芸術に親しみ、美しいものや優れたものに触れることによって豊かな情操を育てる。——（小学校学習指導要領（平成29年告示）解説【特別活動編】）



1年



2年



3年



4年



5年



6年

学芸会を教育活動で行う大切な点の1つが、作品を皆で作り上げていく過程です。その中で、主体的に考えて活動し、相談しながら協力して最適解を見付けていく。互いにそれぞれの役割を果たしながら、また新たな課題に向かっていく。まさに探究的な学びのようなサイクルを繰り返しながら、一人一人が成長できるように指導・支援していくことを、西原小では大切にしています。日々の子供たちの様子をつぶさに見ていただく機会は多くありませんが、ご家庭でも、お子さんの言葉や学年の発信する情報を基に励ましの言葉をかけていただくと幸いです。

### 12月の目標

#### 【生活目標】

みんなで使う物を大切にしよう

#### 【保健目標】

寒さに負けない体をつくろう

#### 【給食・食生活】

残さず食べて

寒さに負けない体をつくろう

令和6年も、学校の教育活動にたくさんのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。どうぞ、よいお年をお迎えください。